

ジャオ ツオンマイエン

焦 従勉

法学部・准教授

博士(人間・環境学)／京都大学

主な研究業績

●Local Commons and Democratic Environmental Governance, United Nations University Press, 2013(共著)

●「比較環境ガバナンス 政策形成と制度改革の方向性」、ミネルヴァ書房、2011年(共著)

●「環境ガバナンスの現状と課題—2009年度北九州・諫早湾干拓事業視察調査報告書」、2010年(編著)

研究テーマ

日中環境ガバナンスの比較

概要

日本が経済急成長の時代に経験した公害問題・環境問題は、いまの中国でも注目されている。大気汚染、河川汚染、及びさまざまな公害病は中国で大きな社会問題になっており、これらの問題の解決策について模索されている。一方、日本は数十年の官民の努力によって、公害問題はかなり解決でき、環境もかなり改善された。

本研究は、日本と中国の環境ガバナンスの比較を通して、現在の中国の公害・環境問題の解決に、日本の経験と教訓を生かせる方法について考える。また、中国の環境改善に貢献するとともに、日本にも経済利益・環境利益をもたらすことが必要であり、両国が利益を享受できる条件について考察する。

応用分野

日中間の環境協力